

科目コード	科目名	単位数
0011	哲学	4単位

教材コード 000404

教材名 『西洋思想の要諦周覧』

(学習指導書別冊)

著者名等 嘉吉 純夫・齋藤 隆

■教材の概要

この教材は、哲学的思考の類型によるカテゴリーと、その本質的諸部門とを融合させて西洋思想史の流れを古代ギリシャから現代の科学哲学まで論じられている。従って、この教材を通読すれば、大学における総合科目「哲学」で講じられている問題を考える上で不自由しないものであろう。教材の詳細な内容に就いては、「はじめに」に記載されているので参照してください。

■学習計画のポイント

ページ 10～92

「課題」のテーマから明らかのように第1章を中心に学習する事。

ページ 93～251

認識論を考察するので、第2章を中心に学習する事。

■学習上の留意点

大学の学習は、与えられた教材のみを用いて書けば良いものではない。多くの本を読むことで、自分の考えと同じものや、対立するものもある事を知るのも本当の勉強である。それらを参照しながら書く努力も必要である。

■参考文献

特になし。

科目コード	科目名	単位数
0012	論理学	4単位

教材コード 000002

教材名 論理学

著者名等 曾田 範治

■教材の概要

論理学とは、議論の進め方についての規則を求めるものである。議論の進め方を推理というが、推理を内容に即して考えるのではなく、論理形式に直して（形式論理学）その正誤を判定する。推理をいろいろな形に分類し、推理の種類ごとに規則をつくるが、各推理の正しい定義を正確に理解しなければならない。また論理学としての特有な用語が数多く出てくるから、それらにも注意する必要がある。論理形式（推理）を記号で表現する。

■学習計画のポイント

ページ 1～154

1～94 ページ

論理学の目的は推理の規則であるが、推理は判断より成立し、その判断は概念により成立する。序説～第2章では概念と判断を学習する。とくに判断について1つ1つの用語を正確に理解してもらいたい。

95～154 ページ

推理を直接推理と間接推理に分け、直接推理には2種類、間接推理には5種類がある。それぞれ異なる規則が成立するから、混同しないように。概念と判断の知識が前提になることはいうまでもない。

ページ 155～246

155～200 ページ

帰納推理と類比推理を学習する。第3章～第9章の推理は論理形式によって推理したが、それらは経験的事実を土台にして推理する。これまでの推理とくらべながら学習するとよい。日常生活によく表れる。

201～246 ページ

学問に対する研究方法を学習する。因果関係、帰納的因果法、定義、分類、論証が中心である。それらの相互関係をしっかり理解しなければならない。第3章～第14章が土台になることはいうまでもない。

■学習上の留意点

- ① 各推理の定義を一覧表にする。
- ② 各推理の規則の一覧表をつくる。
- ③ 各推理の法則を実際の推理の中に適用する。

■参考文献

- 『論理学入門』（岩波全書）近藤洋逸・好並英司著（岩波書店）
『論理学』小林利裕・寺中平治・米沢克夫著（サンワ・コーポレーション）

科目コード	科目名	単位数
0013	倫理学	4単位

教材コード 000405

教材名 『21世紀の倫理』

(学習指導書別冊)

著者名等 笠松 幸一・和田 和行 編著

■教材の概要

本教材『21世紀の倫理』は、大きく捉えると、伝統的な倫理（第1章 倫理の歴史）と新興の応用倫理（第2章 生命倫理、第4章 メディア社会の倫理、第5章 グローバル化時代の倫理）から成り立っております。特に本教材は、生命や環境や情報に関する諸問題を取り扱う応用倫理（学）について重点的に学んでいただくことを趣旨としております。

倫理・倫理学の目的とは、伝統的倫理であれば応用倫理であれ、人間（私たち・私）の行いの正邪悪を究明するとともに、その正なる、善なる行いを実践するところにあります。

■学習計画のポイント

ページ 1～144

- ① Ethics（倫理・倫理学）の語義、実践、変容性等について理解してください。
- ② なぜ現代社会において応用倫理が誕生したのか、その誕生の経緯を生命と環境に着目しつつ理解してください（第1章の4）。

ページ 145～246

- ① 電子メディア（コンピュータ）によって開かれてくるメディア社会、グローバル化時代、そこに生じてくる問題を把握してください。
- ② 電子メディアがもたらす問題を、活字メディア（新聞、書物、等）と比較する観点から把握してください。

■学習上の留意点

- ① 倫理・倫理学は、古代、中世、近代、現代それぞれの時代（社会）における要請とともに展開してきました。
- ② 近代の倫理は、人間の倫理的能力に信頼をおいて、従って人間中心主義の倫理として、また市民社会における「契約」を可能にする倫理として展開してきました。

■参考文献

各節の文末に指示される文献を参考にしてください。

科目コード	科目名	単位数
0014	宗教学	4単位

教材コード 000004

教材名 宗教学

著者名等 奈良 弘元

■教材の概要

宗教学は、宗教のあるがままの姿（事実）を明らかにし、宗教についての正確な知識の体系を築きあげようとする学問である。したがって、その学的性格から、テキストは、まず、宗教についての歴史的事実を正しく把握することにつとめた。テキストの構成は、「宗教は人類の歴史とともに始まる」、「私たちの生活と宗教とのかかわり」、「私たちをとりまく宗教の諸相」、「私たちのまわりから消えてしまった宗教」及び「私たちに身近な宗教の思想」からなる。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 104

1 ～ 55 ページ

各儀礼の特徴点の理解。宗教芸術、宗教文学についての具体的な作品の理解。世界宗教としてのキリスト教とイスラム教との歴史的事実の理解。両宗教の共通点と相違点との比較検討。キリスト教については、宗教の思想の項も参照されたい。

57 ～ 104 ページ

世界宗教としての仏教、民族宗教としての各宗教の歴史的事実の把握。特に、ヒンドゥ教・ジャイナ教・シク教と仏教の比較、ユダヤ教とキリスト教との比較、神道の歴史的展開と儒家・復古・教派の各神道の特徴の理解。

ページ 105 ～ 199

105 ～ 163 ページ

未開宗教の特徴点の理解と、その現代社会への影響の理解。古代宗教（消えてしまった宗教）のそれぞれの特徴点の理解。キリスト教思想の基礎的理解。特に、イエス、パウロ、ルターの比較検討。

165 ～ 199 ページ

初期仏教・部派仏教・大乘仏教の思想的相違点の理解。大乘仏教の諸思想の特徴の理解。神道思想の基礎的理解。特に「敬神生活の綱領」の内容理解。教派神道各派の思想的特徴の理解。

■学習上の留意点

「学習計画のポイント」をふまえて、その内容をしっかり把握し、理解しておくこと。

■参考文献

巻末の主要参考文献中、特に『世界の宗教』岸本英夫著（原書房）、『世界の宗教と経典 総解説』（自由国民社）、『宗教学辞典』（東京大学出版会）を参照のこと。

科目コード	科目名	単位数
0015	歴史学	4単位

教材コード 000393

教材名 歴史学

著者名等 高綱 博文・竹中 眞幸・藤井 信行・馬淵 彰・粕谷 元・渡邊 浩史・郡司 美枝・須江 隆・鍋本 由徳

■教材の概要

本教材は、古代から近代にいたる歴史を日本史・東洋史・西洋史の3分野から論述したものである。本教材の大きな特徴は、従来の「通史」とは異なり、人物の動向を中心にしながら歴史を考えることを目的としていることである。「第1単位」は日本中世・近世史、「第2単位」は日本近代史、「第3単位」は中国史・西洋中世史、「第4単位」はイスラーム史・西洋近代史である。本教材は人物を中心に編まれているが、これはいわゆる「伝記」ではない。彼らがどのような時代に生き、その時代の中でどのような理念を持って活動していたのかを考えてもらいたい。

これまでの通史的歴史学に馴れた人にとっては、つかみどころのないものを感じるかもしれないが、本教材を学習することによって、地域性・時代性を考えていくことが第一の目標となる。

■学習計画のポイント

ページ1～82

第1単位 (1～56ページ 渡邊浩史・鍋本由徳)

第1部では、安倍晴明、一遍、道成寺縁起絵巻を扱い、日本中世における熊野を中心にした文化装置について考察する。信仰・伝説などから当時の政治・社会への影響を考えていく。

第2部の日本近世史では、徳川吉宗、大岡越前、田中休庵を扱い、日本近世の転換点である享保期について考察する。いわゆる「享保改革」の評価について多角的に考えていく。

第2単位 (57～82ページ 郡司美枝)

第3部では、明治天皇、乃木希典、石田伝吉を扱い、明治時代の政治・社会の動向について考察する。彼らの日常生活から、日露戦争前後の人々の思いや暮らしを考えていく。

ページ83～211

第3単位 (83～161ページ 高綱博文・須江 隆・馬淵 彰)

第4部では、岸田吟香、荒尾精、内田完造、林京子などを扱い、19世紀中葉以降の上海日本人居留民の歴史を考察する。上海体験の証言などから、当時の人々の生き方を考えていく。

第5部では、蘇舜欽、方臘、林二十三娘を扱い、中国宋代の社会を考察する。唐宋変革期における官僚制度の実態や、反乱、言説などから、士大夫文化・庶民文化の融合などを考えていく。

第6部では、ウェスレー、アレヴィ、ステイブンスを扱い、産業革命期のイギリスにおけるキリスト教と社会の展開について考察する。メソジスト派をキーとして、当時の社会問題を考えていく。

第4単位 (162～211ページ 粕谷 元・藤井信行)

第7部では、アタテュルク、ヌルスィー、ベイを扱い、19世紀におけるトルコについて考察する。イスラーム文明からヨーロッパ文明への移行にともなうトルコの抱えた問題について考えていく。

第8部では、エーレンタール、ベルヒトルト、カイザー、グレイを扱い、第一次世界大戦期のヨーロッパを考察する。イギリス・ドイツ・オーストリアの外交政策から大戦勃発の要因を考えていく。

■学習上の留意点

本教材は「伝記」とは異なる。学習にあたっては、各章末に挙げられた参考文献などにも目を通すとともに、各国の通史を学習し、地域・時代の概略を併行して理解しておくことが望まれる。レポート課題作成にあたっては、その時代のあり方に着目することが重要である。

■参考文献

各章末に【参考文献】を記した。時代概観は、日本史であれば『日本の歴史』（中央公論新社・講談社、他）、外国史は『世界の歴史』（中央公論新社、他）などを参照してもらいたい。

科目コード	科目名	単位数
0016	文化史	4単位

教材コード 000308

教材名 『日本文化史（第二版）』

著者名等 家永 三郎

■教材の概要

本書は、原始社会から封建社会解体期までの日本文化の歴史についての概説書である。「文化」という言葉の意味は非常に幅広く多様であるが、本書ではその点を踏まえつつも、「文化」という言葉から一般的に想起されるところの、学問・芸術・宗教・思想などの領域を論述の対象としている。もとより、本書は概説書であるので、上記の各分野についても詳細な内容が論じられているわけではないが、私たちの祖先が創造し、継承してきた日本文化の特質について通史的理解を得る上で利益な書といえよう。

■学習計画のポイント

ページ1～111

I 原始社会の文化～IV 貴族社会の文化の4章で構成されている。一般的な時代区分でいうと、先土器（旧石器）・縄文・弥生・古墳（大和）・飛鳥・奈良・平安の各時代であり、時代的には極めて長期にわたっている。したがって（後述にも共通していえることであるが）まず、日本史全般にわたる上記各時代の特質や、前・後代との関連性などを概説書・通史類を読んで把握しておくべきである。その上で本分冊を読めば、その記述内容に対する理解がよりいっそう深められよう。なお、本書冒頭の「はじめに 日本文化史の課題」についても熟読しておくように。

ページ113～244

V 封建社会成長期の文化～VII 封建社会解体期の文化の3章で構成されている。一般的な時代区分でいうと、鎌倉・室町（戦国）・安土桃山・江戸の各時代である。前述が扱う時代に比較して、本分冊のそれは約700年と短いものの、文化の多様さと裾野の広がり（文化の作り手と受容者）や、文化史に関する遺物・文書・記録類の残存量などを考えると、学習すべき対象は非常に多いといえよう。したがって前述と同様、日本史全般にわたる概説書・通史とともに、文化史各分野（思想史・美術史・科学史など）の概説書・通史にも目を通して学習することが必要であろう。

■学習上の留意点

「教材の概要」の欄で記したように、本書は日本文化史に関する概説書であるから、各時代の文化や文化の各分野について詳細な記述はなされていない。したがって本書で文化史を学習する際には、まず全体を通読し、さらにその上で不明・疑問点や、より詳しく学ぶべき事項があれば、下記の参考文献他に目を通し、正確かつ詳細な知識を得るよう努力すべきである。

■参考文献

- 『国史大辞典 1～15巻』（吉川弘文館）
- ※『日本通史 1～21巻・別巻1～4』（岩波書店）
- 『日本文化の歴史』尾藤正英著（岩波書店）（教材巻末の参考文献一覧も参照のこと）
- 『体系日本史叢書 15～23巻』（山川出版社）

科目コード	科目名	単位数
0017	文学	4単位

教材コード 000406

教材名 『文学概論』

(学習指導書別冊)

著者名等 吉田 精一

■教材の概要

「文学とは何か」という問いに対して、本書は「詩」「小説」「戯曲」「評論」という各ジャンルについて「何か」「種類」「構成」「特性」「鑑賞」の視点で説明します。その上でそういった「文学」の「本質」について追求します。具体的な事例に即しながら展開されます。

■学習計画のポイント

ページ 7～160

各章において「詩とは何か」「小説とは何か」「戯曲とは何か」「評論とは何か」という問いかけから始まり、最終的に第2分冊の「文学とは何か」「文学の本質」に迫ろうとしています。

ここでは、各章ごとに種類を分類し、語と形、構成や構造の上から実証的に説明してあるので項目ごとにまとめてみるのが大切です。

ページ 161～201

ここでは「文学の本質」が検討されています。そのために

- ① 文学とは何か
- ② ことばの思想
- ③ イメージと想像力
- ④ 文学と人生

の4項目が考察されています。それぞれの内容・要旨を把握して、全体の構成、展開から、さらに「文学の本質」とはどのようなものが著者の主張だったのかを理解するようにしてください。

■学習上の留意点

第1分冊では、さまざまな文芸用語や作家、作品が出てきますが、第一回目の読みは、あくまでも項目の見出しをキーワードに読み取ることが大切です。第二回目の読みからは、いろいろ調べて読んでみてください。

第2分冊では「文学（学習指導書）」を参考にしつつ巻末の「解説」もよく読んでください。

■参考文献

- 『文学入門』 桑原武夫著（岩波新書）
 『文学とは何か』 加藤周一著（角川選書）
 『小説の方法』 伊藤整著（岩波書店）
 ※『文学入門』 阿部知二著（市民文庫） 他

科目コード	科目名	単位数
0019	美術史	4単位

教材コード 000310

教材名 『カラー版 日本美術史』

(学習指導書別冊)

著者名等 辻 惟雄 監修

■教材の概要

本書は日本美術の流れを時代別にまとめた概説書で、彫刻、絵画、工芸といった美術のジャンルを総合的に扱っている。第Ⅰ章 先史・古墳時代からはじまり、第Ⅻ章 現代にまで及んでいる。また、巻末の年表及び付録もあわせて参照されたい。

■学習計画のポイント

ページ 5 ～ 52

縄文時代から奈良時代までを扱うが、特に第Ⅱ章と第Ⅲ章の飛鳥・白鳳・天平時代の仏教美術を重点的に学習すること。この時代は仏像が美術の中心的存在であるので、飛鳥・白鳳・天平の各時代の代表的仏像様式の特徴を理解し、その変遷を把握することが重要である。また絵画、工芸に関しては、教材で取り上げている作品について、その特色を把握してほしい。

ページ 53 ～ 100

平安・鎌倉・南北朝時代を扱う。彫刻については平安前期・平安後期・鎌倉の各時代の様式や技法上の特徴を理解し、その変遷を把握すること。絵画については、密教絵画や来迎図などの仏教関係の作品を重点的に学習し、あわせて絵巻物や肖像画など、この時代の代表的作品について幅広く学んでほしい。

■学習上の留意点

- ① 美術作品のみを見るのではなく、歴史的背景や特に中国様式の伝播の状況についても視野に入れることが美術史を理解する上で重要である。
- ② 代表的作品については図版を参照して、自分の目で確認しつつ様式を理解すること。

■参考文献

本書の付録の「参考文献」を参照。そのほか入手しやすいものとして以下のような概説書がある。

『日本仏像史』水野敬三郎 監修（美術出版社）

『目でみる仏像』星山晋也・田中義恭著（東京美術）

科目コード	科目名	単位数
0021	法学（日本国憲法2単位を含む）	4単位

教材コード 000394

教材名 法学

著者名等 廣田 健次・船山 泰範・松島 雪江

■教材の概要

本書は基礎的な法律用語や法の歴史、構造、性質などについてまとめられた概説書である。法学の全体像に概観することによって、これから専門的に法律の勉強を進めようとする時の基礎になると同時に、必ずしも法律を専攻するわけではないが、一市民として知っておくべき「法とは何か」を学ぶための入門書ともなる。

総論部では、法学とはどのようなものかを整理しながら俯瞰して、いくつかの問題点も提示されている。各論部では、総論部での知識に基づき、積極的に法を用いる主体としての読者を想定し、単に「法によって規制される私達」のみならず、「法によって社会に積極的に関わっていく私達」を模索している。法学は決して完成され完結された世界ではない。今後法律を専攻する人もそうでない人も、ここを出発点にして新たな世界に踏み出してほしい。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 138

総論部では、それぞれの章が密接に関係しあいながら法学の全体像が示されている。ページ順に読み進み、脚注や関連したページが記されていれば、厭わずに参照してほしい。法学は言葉の学問とも言われる。専門用語の定義をきちんと理解しながら読み進めることが肝要である。

ページ 139 ～ 219

それぞれの章が独立したトピックを扱っているため、必ずしも順を追って読み進めていく必要はない。日常生活と密接に関係する事柄が豊富に扱われているため、時折立ち止まって関連する時事問題や新聞・雑誌の記事なども参照していけば、より立体的な法学の把握に役立つであろう。

■学習上の留意点

法律用語をきちんと理解すること、提示されたトピックが他の領域とどう関連しているかを常に意識すること、またそれがどのような問題性を持つのかを考えながら読み進めてほしい。1章読み終えるごとに、その章の概要を簡単にノートにまとめる作業を行うことを薦める。

■参考文献

『新法学入門』山川一陽、船山泰範編著（弘文堂）

『法学入門』三ヶ月章著（弘文堂）

『現代理論法学入門』田中成明編（法律文化社）

なお、法律用語について分からないものがあるときは以下を参照すると良い。

『有斐閣法律用語辞典（第3版）』法令用語研究会編（有斐閣）

科目コード	科目名	単位数
0022	社会学	4単位

教材コード 000433

教材名 『社会学講義—人と社会の学—』

著者名等 富永 健一

■教材の概要

社会学の世界を基礎理論から領域社会学まで、体系的に理解することを目的としている。

社会学的方法論・思考を明らかにし、社会的に考えることを本教材はめざしている。

社会学とは何か、社会学の基礎理論、概念規定を理解してもらう。基礎理論として、社会的行為、社会関係、集団など、社会を構成する基礎をまなぶ。さらに、家族、農村・都市、産業など領域社会学をとおして、より具体的な問題解決を導き出している。

■学習計画のポイント

ページ 4～155

- ① 社会学の考え方を学習する。社会学の基礎理論を考える前提となる。
- ② 理論社会学として、行為・相互行為、集団などの過程を人びとの身近な環境からみる。
- ③ ミクロからマクロ、社会学の広がる世界を理解していく。

ページ 158～258

- ④ 基礎理論から領域社会学へと進み、今日の社会において生じる、さまざまな問題の解決方法考える。
- ⑤ 日常生活にかかわる問題点、疑問点をカテゴリー化し、領域社会学に該当させてみる。
- ⑥ 領域社会学の成果から、学生個人の研究テーマや関心などを広げていく。

■学習上の留意点

- ① 社会学とは何か、社会との関係、社会学の概念を理解する。
- ② 行為の視点から広がる世界を考える。
- ③ 日常おかれている状況のなかで研究テーマを考える。
- ④ 自らの研究領域を確立し、社会学的方法論によって分析を試みる。

■参考文献

教材の参考文献からみつけてください。

科目コード	科目名	単位数
0023	政治学	4単位

教材コード 000279

教材名 政治学

著者名等 阿部 竹松・秋山 和宏・関根 二三夫

■教材の概要

本教材は、受講生が民主主義国家における政治制度についての理解と教養を高めるために役立つのみならず、政治についての実践的な知識を深めるためにも役立つように企画されている。本教材の特徴は、政治理論に関する解説を簡素化して、実学として政治を理解できるように、議会、内閣、裁判所、その他の行政機構などの政治組織や国民が直接政治に関与する選挙、政党、圧力団体などの政治過程に重点を置いて解説を試みている点である。

■学習計画のポイント

ページ1～101

① 政治と政治社会

政治現象を生み出し、特徴づけているものは、社会、人間、紛争、権力である。政治権力という高度に組織された強制力、制裁力で危機を回避し、社会を安定的に保持しようとする働きが政治である。特に権力との密接な不可分性に着目して、政治を権力の形成・行使・維持に関わる現象を学ぶことである。また、政治現象は、国家と社会との関連において生ずる。特に近代市民社会以降の社会現象の推移と国家との関連を理解していただきたい。

② 近代の政治思想

近代ヨーロッパの政治思想家を中心に彼らの政治哲学の諸原理について簡明に解説してある。それらの理論を社会背景を念頭において考察することが肝要である。

③ 現代の政治過程

選挙、政党、圧力団体を研究対象とする政治過程論は、政治を実施するために設けられた政治制度やその枠外で作用している政治慣行や利害関係を研究対象としている。そして、政治の実態を科学的かつ実験的に捉えている。科学的・実験的とは、仮説を立て、対象を客観的に観察し、仮説を検証する法則を設定することである。この点を肝に銘じて勉強して欲しい。

ページ105～208

① 立憲民主制の統治形態

民主政治制度では、例外なく、統治権が分散されている。立法、行政、司法の三権がどのように分散され、三権がどのような抑制関係にあるかによって、政治形態が分類されている。アメリカの大統領制や日本の議院内閣制を皮切りに各国の政治形態を権力の分散の尺度で検証することを推奨する。

② 国家の統治機構

わが国の政治機構を国会、内閣、裁判所に分けて、各々の組織と権限について解説してある。しかし、上記の三機関の権限は、相互に関連している。アメリカ連邦政治機構の下での権力の配分や抑制関係と比較して検討すると、わが国の政治を理解するのに役立つ。

■学習上の留意点

政治学の研究課題は、相互に関連しているので、関連分野の課題についても検討することが求められる。例えば、内閣の権限について検討するときは、同時に国会の権限にも目を通すことが肝要である。

■参考文献

教材に記載されている参考文献を参照されたし。

科目コード	科目名	単位数
0024	経済学	4単位

教材コード 000450

教材名 経済学

著者名等 藤本 訓利・植木 恒夫・塚本 隆夫

■教材の概要

この教材は、経済学に興味を抱き、初めて経済学を履修しようとする学生諸君のために書かれたものである。現実の経済がグローバル化し、また複雑化しているため、このような現象を理解するためには幅広い経済学の知識が必要となる。しかし、この教材では、経済学とはどのような学問であるか、経済学の考え方や歴史などの経済学の導入部分、消費者や生産者（企業）の行動を理解するための基本的な理論（ミクロ経済学）、一国経済の動きを理解するための基本的な考え方や理論、そして財政・金融策の効果など（マクロ経済学）が説明されている。

■学習計画のポイント

- 第1部：社会科学としての経済学は、どのような科学・学問であるかを理解する。経済学者たちがどのような世界を捉え、希少性に対処しようとしているのかを理解する。この視点から、①何をどれだけ生産するのか、②どのようにして生産するのか、③誰のために生産するのか、という経済の基本問題に対する考察がなされる。
- 第2部：消費行動では最適消費計画を、生産者行動では利潤最大化（費用最小化）を理解し、経済主体の選択が需要や供給を決めている点を理解する。完全競争市場、不完全競争市場における価格決定と資源配分が社会的総余剰と関わることを理解する。市場メカニズムと市場の失敗や政府の介入の意味を理解する。
- 第3部：マクロ経済学の特徴や分析方法やマクロ経済変数について理解したうえで、国民所得の諸概念や三面等価の原則などマクロ経済学の基礎的な概念について理解する。これらの概念を用いて展開される国民所得の決定理論や投資の乗数効果を理解する。さらに、貨幣の役割や貨幣とマクロ経済との関係について理解する。財政政策や金融政策が、一国の総需要や総供給を管理するための重要な手段であること、IS = LM モデルを使って財政・金融政策の効果を理解すること。

■学習上の留意点

- 第1部：経済学の基本的な考え方である希少性の法則、効率的な生産、市場メカニズムの基本的な機能をめぐるグラフと数式を用いた論理展開になれること。
- 第2部：消費者行動と効用の最大化、生産者行動と利潤の最大化によって需要曲線や供給曲線が導出されている。効用最大化と消費者余剰、利潤最大化と生産者余剰の関係を整理し、社会的総需要の観点から様々な市場形態や政府の活動を理解する。
- 第3部：国民所得の諸概念や三面等価の原則など一国の付加価値を算出する際の基本的な考え方や、一国の生産水準が決定される理論的メカニズム、公共投資の経済的効果（乗数理論）などのマクロ経済学の基礎理論を理解する。また、貨幣の役割や貨幣とマクロ経済との関係や、財政政策・金融政策のマクロ経済的効果を伝統的なマクロ経済学の分析手法を用いて理解する。

■参考文献

教材の「学習指導書」を参照して下さい。

科目コード	科目名	単位数
0031	数学	4単位

教材コード 000339

教材名 『教養の数学 (改訂版)』

著者名等 矢野 健太郎

■教材の概要

現代社会において活用されている数学は大別して2つあるとよい。それは、解析幾何学と微分積分学が発見された17世紀の伝統をひいた古典数学と、この範ちゅうにはまらない現代数学である。勿論、これらはどちらも重要であるが、この教科書は現代数学に焦点をあてて書かれたものである。したがって、いかにも数学といった感じのする微分積分学の解説は殆んどなく、専ら、身近な問題を定式化し発展させる事項が多く解説されている。

■学習計画のポイント

ページ1～116

1 命題, 2 集合, 3 ベクトルと行列, 4 群。各章において現代数学を記述する言葉と事実が解説されている。特に命題と行列の項はよく勉強することが望ましい。

ページ117～197

5 線型計画法, 6 確率, 7 ゲームの理論が解説されている。私達の日常生活の中で線型計画法を用いて解決できる問題は数多くある。例題を読んで、よく理解して欲しい。また非常に多くの応用をもつ確率というものを学んでいく。7 ゲームの理論は余力があり、興味があれば読み進めるといって良い。

■学習上の留意点

レポート課題に真剣にとりくみ、納得できるまで教科書を読むことです。また教科書の演習問題にあたることは事柄の理解の上で不可欠なことです。

■参考文献

特にありません。教科書をよく読むことが第一です。

科目コード	科目名	単位数
0034	生物学	4単位

教材コード 000434

教材名 『人の生命科学（第3版）』

著者名等 佐々木 史江・堀口 毅・岸 邦和・西川 純雄

■教材の概要

21世紀にはいつヒトゲノムの解読がほとんど終了するという現在、生命科学、医学、医療の研究や技術の開発は、急速な発展をとげている今日、生物学の目標は科学的、論理的思考力を育て、人間性を磨き、自由で主体的な判断と行動の基礎を教育の目標に、生命倫理や人の尊厳を幅広く理解して、さらに国際化および情報化社会に対応出来る能力を要請することである。これらをふまえて、科学的思考の基礎や人間生活へのかかわりをこの教科の目標として地球生物圏の生物集団から生命の単位としての細胞の構造と機能、個体の構成と機能、生命活動とエネルギー、遺伝情報（DNA）の働き、化学進化・原始生命の誕生、生態系の仕組みにおける人間活動と地球環境問題等環境問題までさぐりつつ環境問題の全体像として、思考力を高め具体的に明日の環境と人間、地球を守る科学的知恵とし、こうした認識の基にライフサイエンス（Life Science）「生命科学・生活科学」を含めて生命の基本的理解を深めて、環境問題を政治・経済・社会・文化の影響も考えて『安全性』という科学的判断基準だけでなく『安心感』という心理的な側面を同時に考え持続可能な発展が広くキーワードになるように日常生活との関連を重視しながら生物学という学問の性格を理解して学習してほしい。

■学習計画のポイント

- ① 教材の各章の研究課題とコラムを理解しておくが良い。
- ② リポート課題は参考文献を利用してまとめる必要がある。

■学習上の留意点

特になし。

■参考文献

- 『基礎から学ぶ「生物学・細胞生物学」』和田勝著（羊土社）
 『「生命科学」改訂3版』浅島誠監修 東京大学生命科学教科書編集委員会（羊土社）
 『「明日の環境と人間」地球をまもる科学の知恵 改訂3版』河合信一郎・山本義和共著（化学同人）

科目コード	科目名	単位数
0035	心理学	4単位

教材コード 000483

教材名 『新しい心理学ゼミナール—基礎から応用まで—』

著者名等 藤田 主一・板垣 文彦 編

■教材の概要

心理学は、広く心や行動を対象にする大変魅力的な学問です。心を追究し解明したいという願いは、私たちに共通したテーマです。それでは心とは一体何でしょうか。心はどこまで明らかになっているのでしょうか。今日、さまざまな分野において科学の力を結集し神秘的な心の世界に迫ろうとしています。心理学はその中心です。

この教科書は、最新の研究成果を取り入れた心理学の書物です。本書のサブタイトルは「基礎から応用まで」です。心の世界を基礎と応用に分けること自体が奇妙な印象を受けるかもしれませんが、基礎と応用が相まって心の解明に結びつくのです。本書は全部で12章から構成され、各章は今日の心理学が対象とする領域を体系づけて取りあげています。学生の皆さんが1人で読破することができるようにわかりやすく説明されています。

■学習計画のポイント

心理学の領域は多岐にわたっていますので、本書のどの章からでも学習することができます。まずは読み進んでください。なお、本書の巻末には参考文献が掲載されていますので、さらに発展的な学習を希望する方は挑戦してください。各章の最後には話題性豊かなトピックスも挿入されています。

1章～3章 (9～51ページ)

ここでは発達・知覚・性格の心理学を取りあげています。まずは発達の流れを理解してください。それぞれの発達段階には特徴があります。知覚の心理学では、私たちの外界のとらえ方を実験的に確認することができます。性格の心理学では、性格形成の要因などを説明しています。

4章～6章 (52～94ページ)

ここでは、認知・学習・感情と欲求の心理学を取りあげています。認知の心理学は少しハードな内容ですが、脳の働きを解明するうえで重要です。学習の心理学では、なぜその行動が身につくのかを解説しています。感情と欲求の心理学では、情動の表出や適応の問題を説明しています。

7章～9章 (95～140ページ)

ここでは、臨床・社会・犯罪の心理学を取りあげています。応用的な内容は、関心を持つ方が多いとします。健康の課題や心理療法にどのようなものがあるのか、社会の中で人間はどのようにかわり合っているのか、犯罪はどのようにして起こるのかなどについて、具体的な観点から説明しています。

10章～12章 (141～183ページ)

ここでは、環境・スポーツの心理学、心理学史を取りあげています。私たちと生活環境とは大変密接な関係があります。環境との調和と言ってもよいでしょう。スポーツの心理学では、スポーツと健康、メンタルトレーニングなどを解説しています。心理学の歴史は、心理学が現代にいたるまでの経緯を説明しています。

■学習上の留意点

心理学には多くの理論があります。また、その理論に関係する多くの学者の名前が登場します。最初は戸惑うこともあると思いますが、心理学に興味を持つ方はなんなくクリアできます。教科書には、現代心理学のエッセンスが網羅されています。ひとつひとつのテーマには、きちんとした科学的な根拠が内包されていますので、科学的な視点で人間をとらえる方法を学んでください。教科書の内容では十分に満足できない方、もっともっと専門的な勉強に取り組みたい方、心理学の研究に挑戦したい方は、各領域の専門書や研究書へ進んでください。また、辞典や事典で確認することもできます。

■参考文献

- 『心理学辞典』中島義明他編（有斐閣）
- 『応用心理学事典』日本応用心理学会編（丸善）
- 『社会心理学事典』日本社会心理学会編（丸善）
- 『産業・組織心理学ハンドブック』産業・組織心理学会編（丸善）
- 『パーソナリティ心理学ハンドブック』日本パーソナリティ心理学会企画（福村出版）
- 『心理学総合事典』海保博之他編（朝倉書店）

科目コード	科目名	単位数
0036	統計学	4単位

教材コード 000018

教材名 『新統計入門』

著者名等 小寺 平治

■教材の概要

統計学を難しく考えるのではなく、統計学の基本を十分に理解し役に立つ学習も目指します。理論を詳しく述べるよりは、例題を通じて統計学を利用することで、何が理解できるかを重視します。問題が解けるようにならなければ統計学の理論は理解できませんが、問題解決の実力を養うには、定理や公式を記憶するのではなく、多くの問題を考えることが大切です。本教材は、統計学を大きく分けて、収集されたデータ分析を目的とした記述統計と少ないデータから問題を統計する近代統計学と言われる推計学とに分かれています。本教材では、楽しい統計学を学ぶことが目的です。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 71

1～31 ページ

統計学の基本となる記述統計学として必要な諸統計量として、度数分布、代表値・散布度、平均・分散そして相関係数の意味を理解し、練習問題を通じて具体的な統計学の利用方法を学習します。

33～71 ページ

近代統計学の基礎は、いわゆる推計学と言われ、統計データをどのような性質を有しているかを推測することになります。つまり、起き得ること（確率）を推測し起き得るデータの集団はどのような形をしているかを知る必要があります。そのためには確率変数、2次元確率変数、二項分布・正規分布等を学習する必要があります。

ページ 73 ～ 131

いわゆるサンプリングと言われる分野です。つまりデータの一部から全体を知る方法を学びます。次に、平均あるいはデータのバラツキから全体を推計するための区間推定とは何か。更に、「もしかしたらそうかもしれない」と言う仮説が正しいか否かを検定する方法を学びます。

近代統計学の極意を知る最も興味のある領域です。

例えば寿命をある区間で推計する場合に用いる母平均・母分散、実際に計ったデータと推計された値とのズレあるいは適合度などについて学びます。

■学習上の留意点

統計学は実際に利用して役に立たなければ意味がありません。そのためには、理論を通じてセンスを磨き、問題を解くことで利用する方法を確立することが大切です。教科書を自身で理解し、例題を自身で解き、課題に挑むこととなります。他に、コンピュータを利用した統計解析のためのソフトウェアとしてよく知られている Excel についても自身で機会を見つけて挑んでください。

■参考文献

難しい数式を追いかけるのではなく、問題を通じて利用方法を学ぶことが目的です。参考文献は、例題が多く出ている統計学の本を参考にしてください。

『はじめての統計学』鳥居泰彦著（日本経済新聞出版社）

※『詳解確率と統計演習』鈴木七緒著（共立出版）

※『Excelでわかる統計入門』清水理著（ナツメ社）

科目コード	科目名	単位数
0037	科学史	4単位

教材コード 000398

教材名 『改訂新版 思想史のなかの科学』 (学習指導書別冊)

著者名等 伊東 俊太郎・広重 徹・村上 陽一郎

■教材の概要

本書は科学史を5つの大きな変革期にわけ、それぞれの特徴をわかりやすく解説している。特に古代オリエント科学から始まり、哲学革命を経て近代科学をつくりあげた科学革命、さらにその科学が発展し現代科学に至るまで、各時代の科学思想や方法・手段に触れて説明している。科学現象の説明には数式はほとんど用いず、代わりにその科学現象が発見された経緯や後世に与えた影響について説明している。また、本書のプロローグおよびエピローグは座談会および討論会形式で書かれている。ここでは三名の著者の科学に対する考えを知ることができ、本書の内容を理解する上でも大変役立つ。

■学習計画のポイント

ページ 11 ～ 164

古代オリエント科学は数学や医学、天文学など発展させたが多分に宗教的な要素を含んでいたが、ギリシャ科学において世界を統一的な原理によって合理的・体系的に説明する科学思想へと変化していった。さらにこのギリシャ科学は発展し西欧へと伝わり、近代の科学技術の発展の推進力になったと考えられる。ここでは後の科学革命を生起させた過程を理解する。

また、近代科学を創出した科学革命の特質を考え、それらを生み出した思想を理解し、西欧においてのみ近代科学が成立した要因を考察する。

ページ 165 ～ 331

産業革命の推進力となった蒸気機関の発明により19世紀の物理学において熱と動力に関する科学的考察が促進された。同時にそれは近代国家形成に影響を与え、さらには産業革命の反動として反科学主義やロマン主義なども生み出された。ここではこの時代の社会的状況と科学との関係を理解する。物理学では熱力学が発展しエネルギー概念が成立するとともに電磁気学の基礎理論が完成するという新しい動きがあった。その後20世紀には科学はさらに飛躍的に発展し、数々の新技術が生み出された。現在、科学技術は社会・経済・政治のなかで重要な役割を果たす。後半部は現代科学の内容と社会的あり方について考察する。

■学習上の留意点

それぞれの科学史変革期における時代背景や社会的環境、思想や知識を十分把握し、科学の内容と発展へ至る経緯を調べ理解することである。

■参考文献

- 『近代科学の源流』伊東俊太郎著（中公文庫）
- 『西欧近代科学（新版）』村上陽一郎著（新曜社）
- 『科学の発見はいかになされたか』福澤義晴著（郁朋社）